

# キューピーみらいたまご財団の活動 ～食を通じた居場所づくり支援



2023年3月10日

公益財団法人  
キューピーみらいたまご財団事務局

1. キューピーみらいたまご財団の紹介
2. 子ども食堂について
3. みらいたまご財団の助成事業や活動
4. 企業における子ども食堂支援



## キューピーの社会活動のキーワードは「子ども」「食育」

### ベルマーク運動

1960年から実施。  
教育設備助成に協力



### 工場見学

1961年から実施。  
小学校からの社会科見学  
要請がきっかけ



### 講演会活動

1984年から実施。  
食生活と健康についての  
正しい情報の提供が目的



### マヨネーズ教室

2002年から実施。  
食の楽しさと大切さを  
伝えることが目的



## キューピーのサステナビリティ目標

(2019年1月発表)

### 子どもの心と体の健康支援

2030年までに、グループの食育活動などで接する  
子どもの笑顔の数を、100万人以上にする

(2019年からの累計；2022年度までで26.8万人)

### 社会への貢献価値を 定量的に測る指標

- ・健康寿命延伸への貢献
- ・資源の有効活用と持続可能な調達
- ・CO2排出削減
- ・**子どもの心と体の健康支援**
- ・ダイバーシティの推進

# 1. キューピーみらいたまご財団② 財団の設立と運営



## 助成対象

「子ども」を対象とする**食育活動、食の居場所づくり活動**

## 設立

2017年4月（2019年4月から公益財団法人）

## 設立の背景

2016年頃から子どもの貧困が社会問題化

↓  
キューピーが行ってきた食育等の取り組みを継続、進展させるだけでなく、想いを共有しうる団体の活動を広範に支援し**一企業だけでは成し得ない社会活動**に繋げていきたい

食の大切さを伝え、  
食の力で子どもの未来を支える

## 運営資金

キューピーの株の配当金

・150万株（財団に有利発行された株式）

※財団として活動することで、業績の影響を受けにくい

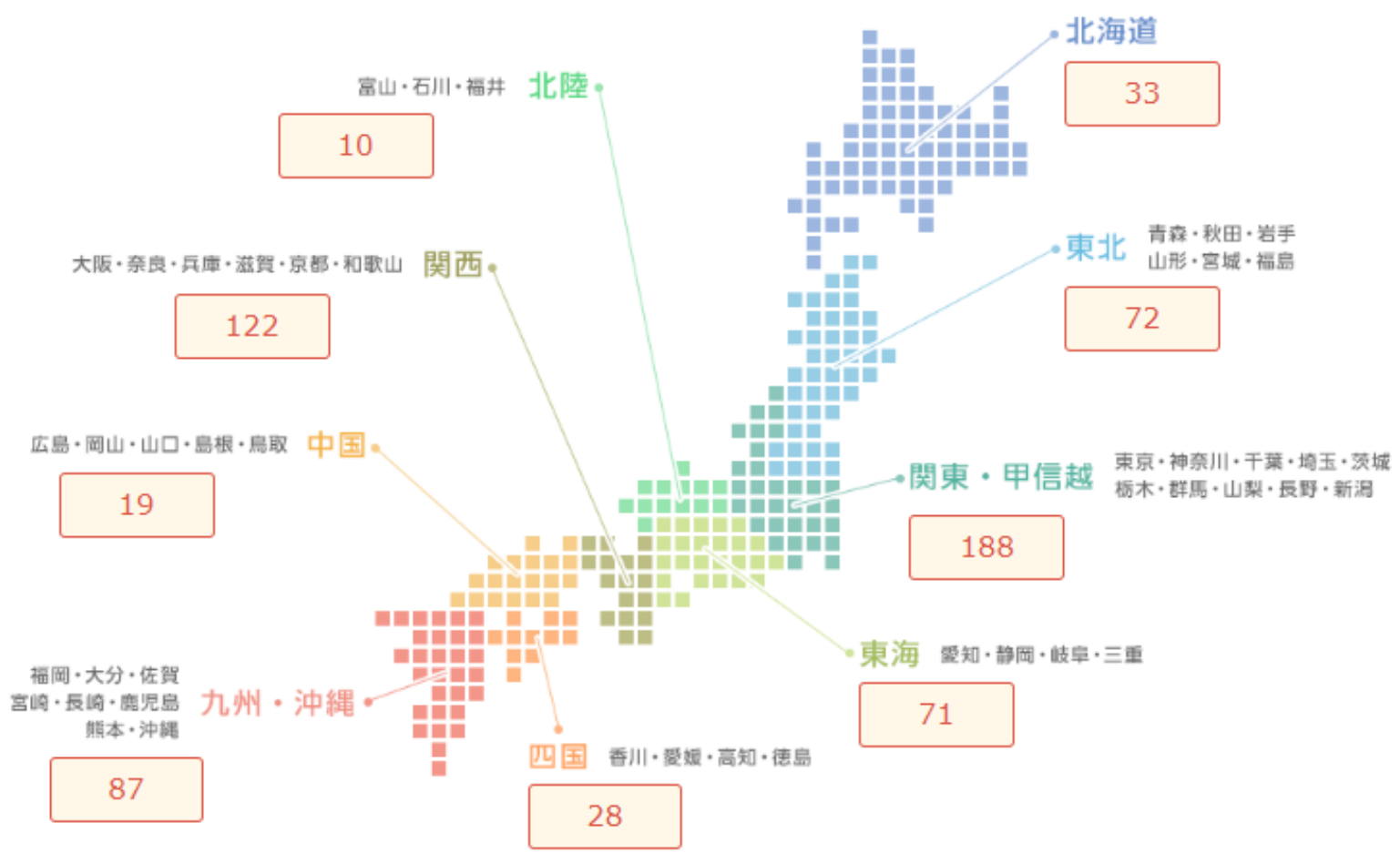
## 助成事業実績

約630団体、約2.1億円（2017年度～2023年度）

# 【参考】全国2017~2023年度助成実績

## 助成実績

年度を選ぶ: 全年度 ▼ **のべ630団体** 例: < 助成団体数 >



# 1. キューピーみらいたまご財団③ グループや社員との関わり



## 社員による子ども食堂 ボランティア応援



グループ商品の寄贈



## 財団イベントへの従業員参加 (助成授与式交流会)



## 支店の活動団体での寄贈 商品の荷受け応援作業

## 2023年度選考準備委員



## 那覇営業所所長からの 助成証書授与式

## 2.子ども食堂について

- ①子ども食堂、居場所はどのように始まったのか
- ②子どもの貧困って？
- ③子ども食堂の現状とこれまでの経緯



# ①子ども食堂、居場所はどのように始まったのか

## ◆東京都大田区 だんだん（八百屋） 子ども食堂 近藤博子さん

小学校の副校長から、お母さんが精神的な病気を抱えている場合、食事も作れなくて、給食以外の食事をバナナ一本で過ごす子どもがいて聞いた。いてもたってもいられず、子どもが一人で入っても、怪しまれない大丈夫な場所ということで、「こども食堂」と名付け、始めたのが2012年だった。



## ◆大阪市西成区 N食堂 Kさん

毎晩、深夜まで外で遊んでいる子ども達がいるので、家のスペースを利用して、遊べる場所を作ってそこに子ども達を呼んだ。感謝されると思ったら「そこのおばん、いてまうぞ」と自分に対して言うほど、いらいらして、荒れる子どもが多かった。そのうちに子どもたちが空腹だということに気づき、ご飯を作って食べさせたら、とてもなごやかないい雰囲気になった。

## ◆東京都世田谷区 寺子屋I I.Iさん（学習支援）

授業についていけない小学生たちの勉強をみる学習塾をやっていた。ある日、子どもたちとそのお母さんに夕食を出したら、今まで聞いたこともない自分の悩みや苦しさを子どもや親が話した。また、宿題を終えたらおやつを出すようにしたら、子ども達が勉強に集中するようになった。そうした経緯でこども食堂を始めたら、いろいろな親子が来て、さまざまな悩みを打ち明けてくれるようになり、生徒も増えた。

→「食の力」を感じて食堂開催へ



## ②子どもの貧困って？～なぜ子ども食堂に行くのか

経済的貧困

○家で食事が食べられないので、普段の食事は学校給食だけだが、子ども食堂のある日は1日2食食べることができる

○家には食べるものがない。昼は給食があるが、夕飯は子ども食堂を渡り歩き、週末は教会に行ってお飯を食べさせてもらう

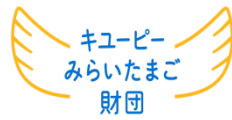
○「子ども食堂のある日はお母さん（お父さん）と一緒に夕飯をここで食べる。この日は親の機嫌がよくなる」と、子どもが親を連れてくる

○両親が共働きで、あるいは母親が仕事に行っていて、帰宅が深夜になる。夕食代をもらい、コンビニなどでお菓子などを買って夕食替わりにしている

○学校が終わり家に帰っても誰もいないので、子ども食堂に行き、宿題などもして、夕飯を食べさせてもらって帰る。家にいても居場所がないので（いたくないので）

交流・体験の貧困

## ②子どもの貧困って？ 居場所の運営者が感じること



- ①困窮世帯の子供達、孤食の子供達にお腹一杯ご飯を食べさせたい
- ②正しい（？）食事の仕方、食べることの大切さ、楽しさを知ってほしい
- ③子どもたちと会話をしたい。状況を知り、力になりたい。

**課題のある子ども（しんどい子ども）※緊急性の高い状況の子ども**  
を児童相談所など外部の福祉窓口へつなげたい

- ④子どもの課題を共有し、食を通して未来を生きる力を与えたい

月1、2回、週1回では栄養面で食をつなぐという機能は少ないが、  
子どもと会話することで、家では味わえない体験、交流をしてもらう

↳ 子どもが親以外の大人や、環境の違う子どもの存在を知る

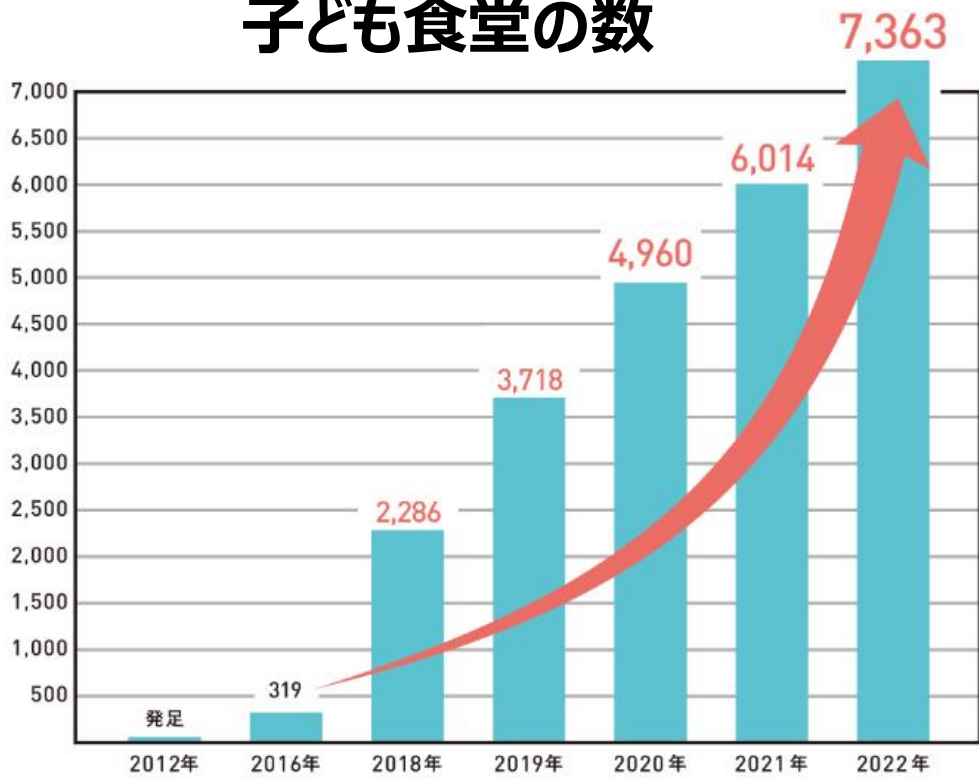
↳ 目指す将来の大人像に出会い、未来への希望を持つ

↳ 貧困の連鎖を断つことにつなげる

**親だけに子どもを育てる責任を押し付けてはいけないのではないか**

# ③子ども食堂の現状とこれまでの経緯

## 子ども食堂の数



2018年以降は認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ、および地域ネットワーク団体調べ、2016年は朝日新聞調べ

むすびえ様資料より

・(参考)むすびえのこども食堂の定義は「こども食堂・地域食堂・みんな食堂などの名称にかかわらず、子どもが一人でも来られる無料または低額の食堂」。

### (注意点)

- ・調査期間は都道府県ごとに異なる。
- ・休止中のこども食堂も「正式に解散・廃止」していないかぎり、箇所数に含む。
- ・「こども食堂」の定義は、回答した地域・自治体の定義に従う  
(結果として、長期休暇中のみの開催等を含む地域・自治体もあれば、含まない地域・自治体もある)。

### ③子ども食堂の現状とこれまでの経緯

2012年 子ども食堂というネーミング生まれる

大田区 だんだん子ども食堂 近藤さん 「子どもが一人で来ても怪しまれない食堂」

2013年～2016年ぐらい

子ども食堂は「貧しい子どもが行くところ」。そんな子どもはこのエリアにはいない(自治体)  
親も「うちが貧しいと思われるから行くな」ということで利用、普及、支援進まず

2016年9月～2019年2月

全国食支援活動協力会 (以下MOW) が事務局となり、  
子ども食堂全国ツアー50か所→この活動によって、利用者増、支援も拡大、食堂増

2020年春

食堂開催の制約を受け、弁当配付、フードパントリー (食品配布) への切り替え

→**運営者は弁当等食品の宅配、保護者の食品の引き取り時に子どもの情報を知る**

現在 新型コロナ禍で支援者増、社会や自治体の子ども食堂への期待が膨らむ

#### 【直近の子ども食堂急増の要因】

○生活困窮支援型

調理などはせず、弁当を購入し、食品の寄贈を受け、フードパントリーを定期的に行う「炊き出し」に近い活動。居場所の要素薄い。

子ども食堂

○多世代食堂

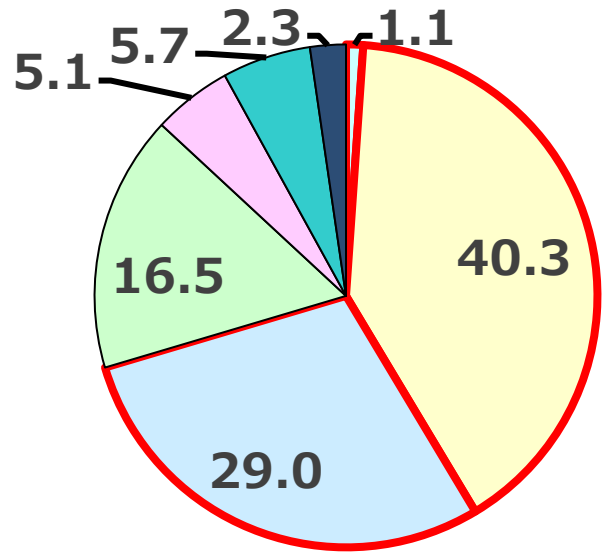
独居高齢者のための居場所だったが、子どもも受け入れよう。子ども食堂も始めました。

○地域食堂 (みんなの食堂)

地元の高齢者、引きこもり青年、子ども、生活困窮世帯、地域の居場所として子ども食堂としても機能を拡大 (子ども会の発展)

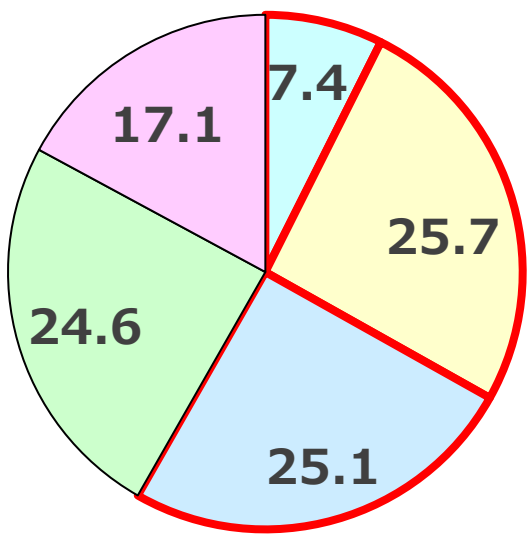
# ③子ども食堂の現状とこれまでの経緯

## 活動頻度



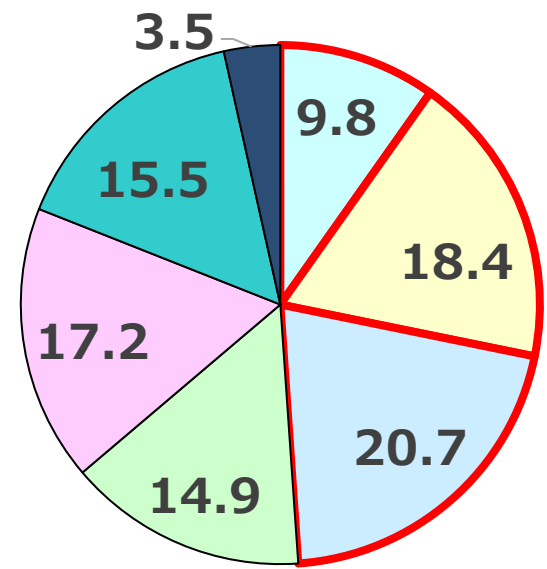
- 年に数回程度
- 月に1日程度
- 月に数日
- 週3~4回
- 毎日
- 週1~2回
- 週5~6回

## 提供食数



- 9食以下
- 10~29
- 30~49食
- 50~99食
- 100食以上

## 活動の年間支出額



- なし
- 10万円未満
- 10万円以上30万円未満
- 30万円以上50万円未満
- 50万円以上100万円未満
- 100万円以上500万円未満
- 500万円以上

参考：「2021年度 コロナ禍における食支援活動の現状と食材支援に関する調査」の集計結果 (2022.4.15)

一般財団法人全国食支援活動協力会、  
千葉大学人文科学研究院 清水洋行研究室

### ③子ども食堂の現状とこれまでの経緯

## 子ども食堂が寄付してほしい食材、食品

	なし	米	肉・魚	野菜・果物	総菜・冷蔵・冷凍の食材・食品	レトルト食品 インスタント食品	調味料	菓子類	飲料	お弁当	その他
寄付してほしい食材、食品	1.8	72.2	71.0	58.6	49.1	44.4	51.5	60.9	60.9	16.0	11.8
もっとも寄付してほしい食材、食品	1.8	27.4	35.7	4.2	6.5	10.1	1.2	6.5	2.4	1.8	2.4

参考：「2021年度 コロナ禍における食支援活動の現状と食材支援に関する調査」の集計結果  
(2022.4.15)

一般財団法人全国食支援活動協力会、  
千葉大学人文科学研究院 清水洋行研究室

# ③子ども食堂の現状とこれまでの経緯

## 子ども食堂が困っていること

寄付を受ける必要はない	困りごとはない	量が足りない	量が多すぎる	必要な食材・食品の寄付がない (少ない)	保管スペースがない (足りない)	冷凍・冷蔵設備がない (容量不足)	受け取る場所がない	運搬手段がない	寄付に関する情報が 手に入らない	その他
0.0	14.5	15.1	2.8	22.9	50.8	54.7	16.2	14.0	17.3	13.4

参考：「2021年度 コロナ禍における食支援活動の現状と食材支援に関する調査」の集計結果  
(2022.4.15)

一般財団法人全国食支援活動協力会、  
千葉大学人文科学研究院 清水洋行研究室

# 【参考】今後の「子どもの居場所」の3つの方向性

## ① 社会課題解決志向の活動(個別支援)

- ・支援を必要とする子どもの栄養不足、家庭内暴力や虐待等からの保護、シェルターのような活動を行い、状況により児童相談所への連携等を行う
- ・食事提供場面も頻度も高く、経済的支援や食品提供も頻度多く行う

→クローズ型で狭いが、深い支援。

## ② コミュニティやすそ野を広げる活動

- ・もっと地域が仲良く交流すべき、その活動の中心になりたい
- ・シングルマザー、ヤングケアラーなどのフォローをしたい
- ・親の帰宅が遅いので、夜遅くまで遊んでいる子どもに居場所を提供したい
- ・子どもの相談に乗ってあげたい
- ・食堂開催の時はきちんとした食事をしっかり食べさせたい(その日は親もリラックス)

→月に1~4回の開催、オープン型で、広く誰でも来てよい

## ③ 居場所における食育活動

- ・親に頼らない自立支援の食事(自分の食事は自分で作る)を教える食育
- ・子育て世代への「産前産後ケア」、高校生、若年層への栄養指導



東京都新宿にあるキッズみらいプロジェクト  
(代表：猪爪まさみ様) が運営

### **OPEN型：新宿区 ニコニコ子ども食堂**

HPで開催日・場所を広報

月に2回開催 50～100人

誰でも来れる子ども食堂

地域センターにて開催 (移動型)

※2016年5月～2020年2月開催



### **CLOSE型：ひみつ基地 毎月5回開催。【財団助成 冷蔵庫】**

年間会費 (3,000円/世帯) 21世帯が登録

ニコニコ子ども食堂にきた子どもの中から、課題 (困窮) のある子ども、家族に  
お声かけ。食事・居場所・Wi-Fi接続・学用品リサイクル・各種相談等行う

※町工場の跡を格安で借りて、東京都福祉保健財団からの助成金を受け改装

○パントリーピックアップ事業 年間会費 (3,000円/世帯)

月に1回開催し、10,000円相当の食材・日用品を提供する。

※食材はセカンドハーベストジャパンより寄付いただく

※パントリーピックアップは45世帯 宅配36世帯



シングルマザー家庭が95%、オープン型子ども食堂をやっていくことで本当に助けが必要な人が  
わかり支援が可能、クローズ型のボランティアには課題のある家庭への配慮が必要

# 3. みらいたまご財団の助成事業や活動① 助成内容

## ◆助成事業（食育&居場所づくり活動団体への寄付）

2020年度より本格始動



### プログラムA

～食育活動支援～

【助成内容】**上限100万円**

食育活動としての講座、  
イベント、研究に関わる経費  
(食材費、会場費、講師代、  
旅費交通費等)



### プログラムB

～食を通じた居場所づくり  
(子ども食堂など) 支援～

【助成内容】**上限70万円**

拠点改修費、冷蔵庫、厨房機器、  
椅子・テーブル、什器等(食材除)

※**スタートアップ助成 20万円**

1年以内の団体の立ち上げ支援。  
食材、光熱費等の運営資金も可

**新型コロナ禍対応特別助成20万円**

食材、容器、運搬費等

### 物品（食品）助成

～自社商品の寄贈～

【対象】

食を通じた子どもの居場所  
(子ども食堂など)

【寄贈の流れ】

MOW(全国食支援活動  
協力会) 運営の**MOWLS**  
を通じて寄贈

【寄贈物品】

マヨネーズ、ドレッシング、  
パスタソース、ジャムなど

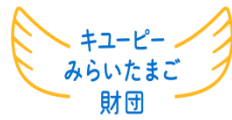
**2023年度総助成金 4,614万円 150団体※**

A 1,187万円 B 2,107万円 新型コロナ禍特別助成  
(25団体) (59団体) 1,320万円(66団体)

**2022年度  
物品寄贈計画  
1,000万円**

※2023年度の3年継続助成 2 団体を含め

# 3. みらいたまご財団の助成事業や活動②助成実績



## 助成実績

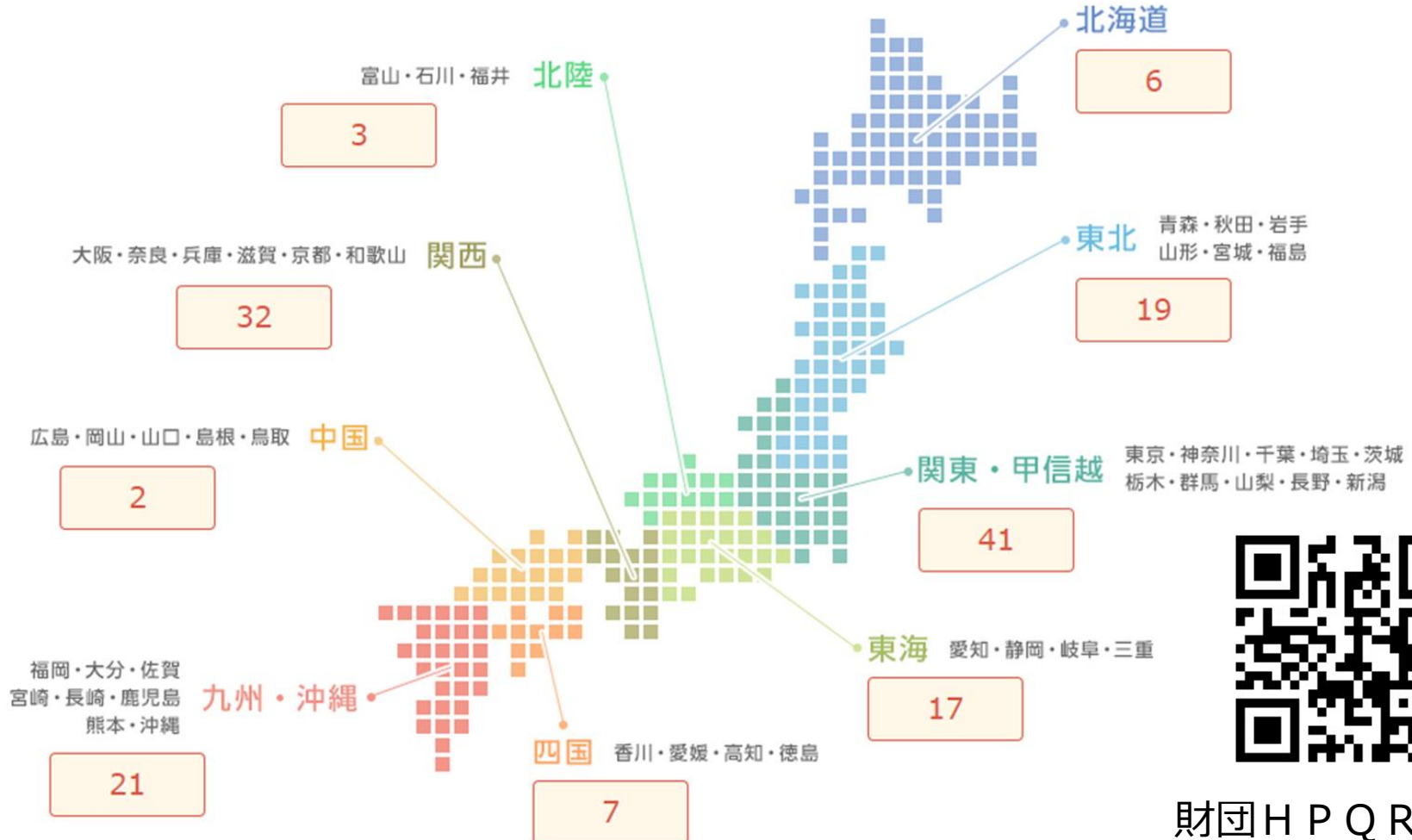
年度を選ぶ:

2023年度 ▼

**148団体**

例:

< 助成団体数 >



財団HPQRコード

### 3. みらいたまご財団の助成事業や活動③居場所づくりサミットの開催

講演と事例報告に加え、50分間のオンライン交流会も実施  
団体同士の情報交換会の場になっている  
財団役員、関係者も加わり、助成事業のヒントも載っている



# 地域の居場所づくりサミット



完全オンライン配信

2022年 11月5日(土)  
10:00~12:20

10:00~10:55  
第1部

キューピーみらいたまご財団助成説明会  
2023年度助成プログラムについて  
講演「改めて考える子どもの居場所づくり」  
相模女子大学 栄養科学部健康栄養学科 教授  
キューピーみらいたまご財団アドバイザー 堤ちはる氏

10:55~12:20  
第2部

地域の居場所づくり講座  
「子ども食堂だからできること  
～食を通じたつながり・見守り・支えあい～」  
一般社団法人全国食支援活動協力会 専務理事 平野 覚治

事例報告 ハスノハ子ども食堂 代表 渡辺 和美氏  
グループに分かれた交流会



# 【参考】居場所づくりサミット交流会での学び(例)

コロナ禍3年目となり

- ・DVが増えている
- ・不登校、引きこもりの子ども達が増えている

- ・居場所の必要性が増している
- ・子ども食堂の再開が望まれている

↓

公共施設等ではなく  
**「常設の居場所の必要性」を痛感！**

**食品宅配**などを行うことで、  
**子ども達の家庭の事情（ヤングケアラー等）**が見えてきた

食堂に来れない子ども達には、  
フードパントリー、弁当配布事業も継続したい

子ども食堂の再開に加えて  
フードパントリー、弁当配布を行うには、  
**これまで以上に食材、資金、場所（※）、人手が必要**

※新型コロナの感染状況により使用が左右される公共施設の一次借りでなく、常設の居場所必要→**空き家の無償及び低家賃提供を求める団体が増加**

## 4. 企業における子ども食堂支援①

SDGs に取組みたい

寄付などの貧困対策、食品ロスの削減だけでなく、従業員の社会活動参加を拡大したい

子ども食堂支援は最適

- ・子ども食堂は支援しにくい
- ・近隣、知己の団体等の支援にとどまる

活動の実態が見えない

- ・週に1回、月に1、2回の活動で貧困が救えるのか？
- ・見学に行っても貧困でない子どもが来ている
- ・ほとんど子どもが来ていないことがある
- ・食堂の利用料金を取っている

支援の効果測定が難しい

## 4. 企業における子ども食堂支援②

### 広範囲に子ども食堂を支援するときの課題

全国に約6000以上あるといわれる子ども食堂に食品をどのように送ればよいのか？



- ①生活困窮者を支援している子ども食堂は？届け先住所は？
- ②宅急便で送るにせよ、食堂開催日が団体によってまちまち。
- ③寄付したい商品を子どもたちは喜んでくれるだろうか？

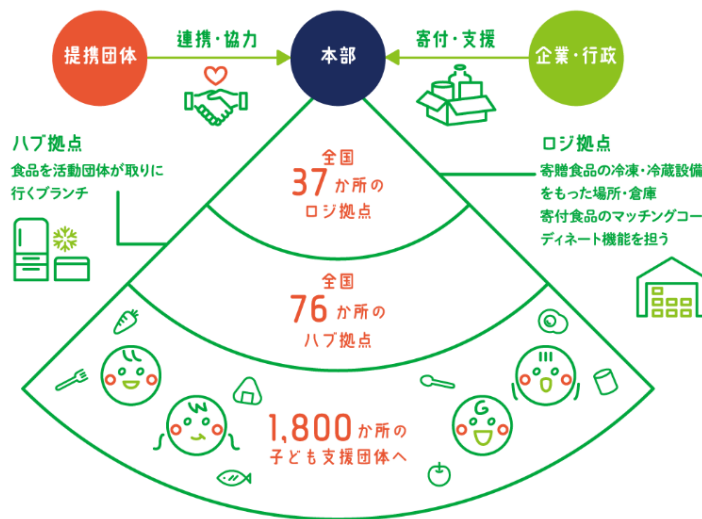
届けることができたとしても、その効果は？リスクは？

- ④商品の特徴、使い方が伝えられて、おいしく召し上がってもらえるか？
- ⑤温度管理の不備で、品質に問題は出ないか？
- ⑥商品が余ったり、賞味期限を過ぎて廃棄されることはないか？
- ⑦子どもたちの反応などを教えてもらうことができるのか？
- ⑧転売されたり、SNSなどで適切でない情報が発信されないか？

(提供する商品：通常の商品、在庫品など)

# 4. 企業における子ども食堂支援③ 食品寄贈

MOW（全国食支援活動協力会）様の今までにない大規模な食品寄贈プラットフォーム「ミールズ・オン・ホイール・ロジ・システム（MOWLS）」を活用することで、**全国の子ども食堂への食品支援（寄付）が安心にできるようになります。**



全国のネットワーク



安心・安全な仕組み



ミールズ・オン・ホイールズ ロジシステム（MOWLS）とは子どもから高齢者まで、全国のこども食堂等「居場所」に集うすべての人が食事を得られる環境づくり。寄贈食品を全国に届けるため、各地の活動団体・行政・社協・企業等と連携しながら、配送（物流）、保管（ストック）、分配（シェア）の整備に取り組んでいます。

QRコードリンク先: <https://www.mow.jp/mow-ls/index.html>







# MOWLSを使って寄付をすると、 お手紙やメール写真をいただけ→社内の共感得やすい



2022年7月～8月、「キューピーあえる  
パスタソース」72,000個を全国の子ども  
食堂 1,905か所にお届け

2021年12月、キューピーハーフ、パスタ  
ソース、冷凍いちご・冷凍りんごなど  
約12万個を全国の子ども食堂約1,800  
か所にお届け

## MOWLSの特徴

- 全国の子ども食堂・子どもの居場所に、確実にスピーディに食品寄付ができる
- 低温度帯（冷蔵、冷凍品）商品の寄贈もできる



## さまざまな企業が得意分野で支援が可能

- 食品関連企業は、食品の寄贈
- 物流企業は、余剰の在庫スペース提供、配送支援
  - ※倉庫余剰スペースの食品保管場所への提供
- 全ての企業&個人でできること
  - ・子ども向け商品の寄贈や運営者への寄付金
  - ・従業員のボラインティア支援  
（商品荷受け作業、子ども食堂へのお届け等）



# ご清聴ありがとうございました

キューピーみらいたまご財団では  
今年も**10月下旬より、2024年度の助成公募を開始します**。子どもを対象とする食育活動、居場所づくりをされている団体さんの申請をお待ちしています。  
→詳細は財団ホームページを御覧ください

